

令和8年度岩倉南小

## 学校運営協議会ニュース NO. 2

### 「つながいから始まる協働 ～ともに子どもを支えるために～」

令和8年6月29日

岩倉南小学校学校運営協議会理事会

会長 二股 茂

京都市立岩倉南小学校

校長 谷村 茂生

学校運営協議会は、理事会と企画推進委員会で構成されています。理事会と企画推進委員会には、次のような目的や役割があります。

#### 【理事会】

「学校教育目標」や「目指す子ども像」等をはじめとする「学校運営の基本方針」を承認するとともに、学校や子どもたちが抱える課題を解決するための方策を議論する組織です。

#### 【企画推進委員会】

理事会での議論を踏まえ、地域として学校とともにどのような具体的活動に取り組むかを協議し、企画・運営する組織です。活動内容の検討・企画をはじめ、活動場所や協力していただける方の手配、当日の運営等を行います。

本校では、子どもたちの学習支援を中心に具体的活動を協議しています。

### 企画推進委員会 ～まずはお互いを知ることから～



今年度の企画推進委員会には、初めて顔を合わせる企画推進委員や教職員もいます。そのため、活動内容を話し合う前に、まずは「お互いを知ること」から始めることにしました。

写真は、お互いについて知るために質問をしたり、その答えについて会話したりしている様子です。企画推進委員と教職員が混ざったグループで、ちょっとした声かけから会話が広がっていきました。

参加者からは、

- 「声をかけるのは少し勇気がいるけれど、会話が始めるとうれしい」
- 「声をかけてもらえるとうれしい」

といった感想が聞かれました。

子どもたちも学校生活の中で感じているかもしれない、そんな気持ちを大人も体験しながら、和やかな自己紹介の時間となりました。

## 小グループでの対話から見えたこと

続いて、小グループに分かれて対話を行いました。

まず、授業や学級づくり、人と協働するときに自分が大切にしていることをリストの中から選びました。さらに、学校や職場の中で「これがあると安心できる」と思うものを選び、その理由について交流しました。

「ほめる」「寄り添う」「観察する」など、それぞれが選んだ言葉はさまざまでした。しかし、参加者の関心は自然と「なぜそれを選んだのか」「この人はどんなことを大切にしているのか」というところへ向かっていきました。



振り返りできかけた声を、いくつか紹介します。

- 「具体的な活動を考えることも大切だが、まずは一緒に子どもを支える仲間としてお互いを知ることが大切だと感じた」
- 「年度当初にこのような機会があることで、教職員と企画推進委員がお互いに話しやすくなる」
- 「これをきっかけに日頃から声をかけ合えるようになれば、新しい学習活動の支援にもつながりそう」

今回の出会いと対話をきっかけに、学校と地域の連携・協働がさらに広がっていくことを期待しています。

## 第2回理事会を開催しました

企画推進委員会に続いて開催した第2回理事会では、学校評価の資料となる児童・保護者アンケートの内容について協議しました。

今後の「学校運営協議会ニュース」では、学校評価の結果や、企画推進委員会と連携して行う学習活動の様子などについてお伝えしていく予定です。

引き続き、学校運営へのご理解とご協力をお願いいたします。



企画推進委員は、学校と共に子どもたちの成長を支えていく一員です。ですが、企画推進委員の中にも、教職員の中にも、「はじめまして」のメンバーもいます。その状態で、いきなり、「どんな活動をしていきましょうか」と話し合うことは、できなくもないですが、無理があるかもしれません。

子どもたちの成長を支えていく大切なお互いです。まずは、「お互いのことを知る」あるいは「お互いのことを知るためのきっかけをつくる」ことから始めることにしました。

左の写真は、お互いのことを知るために、質問をしたり、その答えについて会話したりしている場面です。企画推進委員も教職員もまざって、ちょっとした声かけから会話がスタートします。

「声をかけるのには、勇気がいるけれど、そこから会話が生まれると嬉しい」「声をかけられると嬉しい」

子どもたちも感じているかもしれない、そんな体験を、大人も楽しんだ自己紹介のひとつでした。

こちらは、小グループでの対話の一コマです。

まずは、日々の授業やクラスづくりの中で、あるいは、人と一緒に何かをするときに、自分が大切にしていることを、リストの中から選びました。次に、学校や職場の中に、これがあると安心できると思うものを選びました。そして、お互いが選んだものをもとに、それぞれの話に耳を傾けます。

「ほめる」「寄り添う」「観察する」などなど・・・。お互いが選んだものは、たくさんあり、その内容もそれぞれですが、それよりも、「なぜ、それを選んだのか」「この人は何を大切にしているのか」ということに、自然と関心が向きます。

振り返りでは、「具体的な活動を考えることも必要だけれど、一緒に子どもを支えていく一人として、まず、お互いのことを知ることが大切だと、あらためて感じた」「何年か活動していても、教職員も企画推進委員もお互いに限られたメンバーしか知らない、ということもあったが、このような場が年度当初にあると、教職員と企画推進委員がお互いに話をしやすくなる」「教職員と企画推進委員が、これをきっかけに、別の機会にもお互いに声をかけたり話したりしやすくなることで、今までになかった学習活動の支援も考えられそう」などの声が聞かれました。ここから生まれる連携・協働が楽しみです。

企画推進委員会に続き、開催した第2回理事会では、学校評価の材料とする子どもや保護者へのアンケート項目の内容について、話し合いました。

今後の運営協議会ニュースでは、学校評価の結果や企画推進委員会と連携した学習の様子について、お伝えしていく予定です。